

平成19年度 青雲高校 学校評価シート

領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果	自己評価	
開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	実践目標	青雲通信などの定期的な発行や学校HPの有効な活用を図り、学校・家庭・地域との連携を円滑に進める。		
		成果	青雲通信のカラー化や学校HPの充実ぶりなど充分に取り組んでいる。部署によってHPの更新の頻度が違うので果たしていつも新しい情報を提供しているのか疑問である。青雲通信を一新し、より見やすい通信になった。最新情報を多数発信している。しかし、どの程度活用されているかは、まだ的確には把握できていない。ホームページはもっと活用できたのではないと思われる。青雲通信がカラーになったのは見やすさの観点から良いが、発行間隔が開いたのはマイナス。青雲通信、HPも定期的に変更しUPした。見て入試等の問い合わせ有り。青雲通信の内容が刷新され、工夫と改善が見られました。		
		実践目標	学校行事や地域貢献事業などを通じて、家庭・地域との連携を深め、本校教育活動の理解と協力を得る。		
		成果	学校行事の宣伝、広報がもう少し必要だと思われる。生徒とともに、ふれあい祭に参加した保護者もおり協力的であった。3校合同の募金活動で地域に貢献できた。文化祭(ふれあい祭)では「前年度にプルトップ回収をしていたので…」とペットボトル一杯のプルトップを持参してくださった親子がいて、継続した活動の成果であると思う。受動的な家庭にはまだまだ理解を得られていないと思われる。募金活動などの取り組みで学校間連携や地域への認識があがった。ふれあい祭などを通じて理解と協力を得られていると思います。ふれあい祭などでの地域貢献は充分に取り組んでいる。ふれあい祭やクリーン作戦などがあるが、さらなる地域貢献についても検討できる余地があるのではないかと。		
	学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	実践目標	学校評議員の一部委員を交替して、新たな視点や観点から本校の教育活動に対する意見を聴取し、学校運営に反映させる。		
		成果	できていると思う。具体的な影響を感じない評議員からは建設的な意見が得られるので、その提言をどのように生かすかが課題。保護者参観などに反映したのではない意見も聞き、学校運営に反映できた。ある程度意見を聞き、学校運営に反映できた。学校行事・公開授業等		
		実践目標	学校評議員に本校HPの閲覧及びスクーリングの参観をしていただき、それについての意見を聞き、情報発信方法や授業の改善に役立てる。		
		成果	授業の改善に役立てることができた。評議員が授業見学にきた。授業の改善まではできていない。スクーリングの参観が実施できたことはよい。今後はより多くの参観ができることが課題。詳細は各分掌で異なるので全体としてはわかりません。今後の道筋を示してもらえた。末端まで伝わっていない。		
	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	実践目標	安全な学校、より良い学校の創造を目指し、校門立番や校内巡視の徹底、関係機関との連携、校内全面禁煙の定着等を進める。	
			成果	本校は兵庫県の高校では早くから敷地内禁煙を宣言していたが、残念ながら逆行しているような状態である。校内立ち番、巡回等昨年より徹底できた。生徒からの意見にあったように、まだまだ目の届かないところがある。校内巡視のやり方を検討する方向へ進んだことはよい。なぜ、校内巡視が必要なのかをどのように共通理解へ進めるかが課題。構内巡視を徹底しているが、教員の見えない部分がやはり残る。指導がしにくい中、精一杯の努力がなされました。まだまだ、敷地内全面禁煙の定着が図れていないので、これから徹底的に取り組むことが必要である。校内での喫煙や路上駐車による迷惑行為など課題は多い。	
			実践目標	生徒の学校行事への積極的な関わりや参加数の増加のための方策を研究・工夫し、帰属意識の涵養を図る。	
		成果	高校卒業資格を考えているが、行事に参加していこうとする意識が希薄な中それを指導するのは難しいと思った。PRはよくできていると思う。生徒はどうしても受動的になり、隅々にまで連絡が行き届いていない。学校行事の進め方にあって生徒会を上手く機能させようとしたことはよい。今後は、各担任がどのように生徒を動かして行くかが課題。春の交流会・遠足・ふれあい祭等の内容が工夫されました。十分な取組ができていないため、参加数が増加しきれていない。広報活動や行事内容の充実などが必要。		
生徒の内面の理解を図る指導の工夫		実践目標	各学校行事の内容を工夫し、生徒が地域と関わり、貢献できる機会を増やす。		
		成果	行事をもっと精選する必要があるのではないかと。前述したが行事に関わっていく意識が希薄な中、それを指導するのは難しい。クリーン作戦等地域貢献はできていると思う。募金活動等の長田商業と協力もあり地域貢献はできた。生徒会を中心に地域との交流が深められている。ふれあい祭やクリーン作戦以外にも生徒が地域と関わる場をもっと設定する必要がある。		
	実践目標	キャンパスカウンセラーと教職員との交流(事例研修会)を設け、生徒理解の共通認識を深める。			
成果	これについては、大いに疑問である。本校の生徒が、他校に転動された先生に自分の抱えている問題を相談する事例があった。積極的な研修ができたと思う。研修会は実施されているが、カウンセラーとの共通認識ができていない。カウンセラーとの交流があまり無い。カウンセラーから生徒との相談について何も聞いていない。キャンパスカウンセラーは本校の現状に鑑みて適切な指導助言を行っていない。交流の場をもっと設けることが必要。				
		実践目標	「相談室だより」や教育相談に関する掲示物、学校HP等を通して、カウンセリング情報の広報に努める。		
	成果	適宜、掲示されているのを目にするのでできていると思う。「相談室だより」は発行された。本当に必要な生徒に、利用方法や、更なる利用しやすい環境の整備が必要。広報に準備されたさまざまなチャンネルの利用が不十分。現時点であまり活動的とはいえない。			

領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果	自己評価		
学校運営	進路指導	進路指導体制の充実	実践目標	年度当初に年間計画を全職員・生徒に示し、各時期における必要事項の確認を随時行う。		
			成果	よく努力されていると思われる。よくいできていると思う。定期発送や各回のスクーリングのホームルーム等で伝えている。進路のしおりで年間計画を示した。年間学習計画書を入学式・始業式に渡せるようにすることが今後の課題。		
		進路指導	進路指導体制の充実	実践目標	進路指導部と全担任が協力して大学・短大・専修学校等の情報を収集し、ネットワーク上でその内容を共有する。	
				成果	よく努力されていると思われる。できていたと思われる。進路指導部、3年次4年次の担任を中心に大学等の学校説明会に参加し、得てきた情報をパソコン上で共有した。教員への情報提供は進んだ。生徒への情報提供の速さや更新が今後の課題。	
		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	実践目標	「仕事(アルバイト等)をする」ことを奨励し、「実際に仕事をする」ことを通して働くことの意味を考えさせ、正規就職へつなげる。	
				成果	よく努力されていると思われる。できている。あまり見られなかった。就業体験学習の一環として、「七つの海」「くらべーかりー」「ピータンハウス」の三か所を紹介したが、生徒の希望にあわなかった。学校への求人の現状、割り振ることのできる時間数の制限から、就職指導の機会が非常に少ないことが問題。既に多くの生徒がアルバイトを経験しているように見受けられるが、それが望ましい勤労観にいたっているかは疑問。	
	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上		実践目標	フリーターが増加する昨今、HRや「進路のしおり」等の配布物、就職説明会等を通じて、正規就労の意味や大切さを十分に理解させる。		
			成果	よく努力されていると思われる。「進路のしおり」の活用により卒業学年以外の生徒にも進路について考える動機付けとなっている。あまり見られなかった。進路のしおり、就職説明会、求人票閲覧会、各地区就職セミナーなどで生徒の就職支援を行った。良好だったと思います。		
	教職員の資質向上	実践的指導力の向上	実践目標	スクーリング時において、学校評議員による授業参観を実施する。また、生徒の状況把握も兼ねて、管理職を含む多数の教員が授業教室を適時巡回する。		
			成果	よく努力されていると思われる。できている。事前連絡を周知する必要があったと思われる。あまり見られなかった。教員に授業参観に対する積極性が足りない。どのように意識改革を行うかが今後の課題。授業参観に取り組むことができた。もっと多くの教員の参加を望みたい。		
		計画性を持った研修の実施	実践目標	当面する諸課題に対し、生徒指導・教務・教育相談・人権教育・情報図書等の各部署が全教員対象の研修会を企画し計画的に実施する。		
			成果	よく努力されていると思われる。研修会等はよく実施している。計画的に実行できていたと思われる。講師費用の問題などもあるが、より実践的な研修を計画するなどが今後の課題。ミニ研修や研修会など数多くの取組ができた。研修に熱心な部署とそうでない部署があった。		
教職員の資質向上	計画性を持った研修の実施	実践目標	研究指定になっている「高校生心のサポートシステム」では、外部講師を招聘した講演会等を実施し、カウンセリングマインドのスキルアップを図る。			
		成果	よく努力されていると思われる。職員の意識が向上していると思う。スキルアップにつ繋がったかどうかは、疑問。			
危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	実践目標	本校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成する。			
		成果	不足な面あり。できていると思う。危機管理は広範囲にわたる内容なので、各部署での検討を取りまとめるために、総務部の企画調整力が求められる。			
	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	実践目標	「通信制高校に合った家庭・地域・関係機関との連携体制」を検討・工夫し、防犯に関する教職員の安全対応能力の向上を図るための取組みを行う。			
		成果	この取り組みについては十分ではないと思われる。できていると思うが、より一層の工夫も必要である。危機管理マニュアルがないため具体的に記述できない。			

領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果	自己評価	
	危機管理体制の整備	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	実践目標	災害発生時に生徒が的確に判断でき、安全な初期行動がとれるように、防災管理組織と実際の任務についての確認を行う。	
			成果	避難マニュアル作成と避難経路を生徒に配布することができた。できていると思う。危機管理マニュアルがないため具体的に記述できない。	
			実践目標	防災マニュアルの策定や交通安全に関する研修会の開催等により、自他の生命を尊重する意識を高め、より具体的事例をもとにしたHR指導が行えるようにする。	
			成果	交通安全についての研修は実施された。できていると思う。危機管理マニュアルがないため具体的に記述できない。	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	実践目標	レポート・スクーリングの一環として、社会体育施設や公的機関を訪問し、その業務内容について報告するような教材を工夫・設定する。	
			成果	ワークキャンプなど参加しているようだが、認知度が低いと思われる。「社会入門」や「総合学習」実施している。事前指導の難しさからこのような課題を貸したレポートが減少している。	
			実践目標	県立神出学園と連携し、多様な体験課題を与え、その解決に当たらせる。	
			成果	神出学園→青雲の形は見えてくるが青雲→神出学園の形は見えてこない。来年度に向けて、より一層連携をはかっている。他校との連携に対する教員の意識改善が今後の課題。	
	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	実践目標	各教科で評価基準を設定し、それに基づいた評価を行い、その正当性の検証を行う。	
			成果	各教科努力されていると思う。それぞれの教科で、よくできている。出来ていた。	
			実践目標	本校の実情に合わせた基礎学力の定着を目指した学校設定科目を設置し、上位科目の学習につなげる。	
			成果	在籍生徒にむけて基礎学力を測る機会がないのが課題である。多くの教科でやっている。入門科目等の設定があり基礎からの指導を重視している。各入門等、基礎的な内容の科目設定がある。すでに実施している科目は年数が経過していることから、内容や実施方法の見直しが今後の課題。	
	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立	実践目標	「総合的な学習の時間」についての委員会を定期的に開催し、3年間を見据えた計画を立案し、実施する。	
			成果	各委員会で努力されていると思う。よくできている。定期的な委員会があった。進め方・内容に関して検討の時期に来ているが、そのような意識が不十分な現状の改善が課題。	
	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立	実践目標	生徒の興味・関心や適性を的確に把握し、そのニーズに合った学習テーマを設定し、全教員が一致して取り組む。	
			成果	努力した取り組みが見られるがやや時代遅れになっている面もある。生徒の興味・関心を把握する努力をしている。全教員が一致できていたかは疑問だ。	
個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	実践目標	新しい評価方法について、全教員が研究し、各教科の評価について意見交換を行う。		
		成果	各教員ともそれぞれの個性に応じて取り組まれておられるものと思われる。できていると思う。あまりそういった場は見られなかった。		

領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果		自己評価
	個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	実践目標	公開授業の実施等で授業の改善を目指し、本校生に合ったスクーリングのあり方を検討する。	
			成果	各教員ともそれぞれの個性に応じて取り組まれておられるものと思われる。できていると思う。基本的に公開授業で研修する。	
安全・健康教育	事故防止の工夫と救急処置の対応力を高める	実践目標	安全点検を定期的に行う。救急処置などの安全教育の研修会等を企画する。		
		成果	毎月安全点検は行われている。救急講習会も行った。できている。心肺蘇生の訓練等企画できていた。早い段階でのAED研修など成果があった。今後は回数をふやしたりより実践的な内容で行い、緊急時に生かせるようにすることが課題。市民救命士講習会を実施し、多くの先生方が講習会に参加し、新しい救命士としての取り組み方を学ぶことができた。		
	健康に関する認識を高める取り組み	実践目標	健康診断の受診率を高め、事後指導の徹底を図る。保健室利用者への丁寧な対応。		
		成果	よく努力されていると思われる。健康診断が病気の早期発見につながった例もでており、事後指導の成果だと思われる。丁寧な対応が出来ていたと思われる。保健部が当事者意識を持ち行動していた。今後は教員の生徒への働きかけが課題。定期発送等での健康診断の案内等が充分だったため、多くの生徒が健康診断を受けた。;		
課題教育	人権教育	人権教育推進体制への取組	実践目標	長期的な視野に立ち、4年間を見据えた人権学習に取り組む。	
			成果	よく努力されていると思われる。よくできている。人権教育には取り組んでいるが、4年間を見据えた学習にはなっていない。4年間とはいい難い。本校の現状として長期的な視野にたった計画的な取り組みが必要であると認識することが不得手である。教員の意識改善が今後の課題。	
			実践目標	多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、各部と緊密な関係を取り、生徒の「個」に合わせた人権教育推進体制を構築する。	
			成果	各部との緊密な関係をとる点やや不足していたかと思われる。できている。全ての「個」と向き合うことは出来ない。特別支援の体制が始まったことは評価できる。実働できる組織作りが今後の課題。	
新しい通信制教育	e-Learningの実施による新しい通信教育の実現	実践目標	本格的なe-Learningの実施に向けて、全教科でWebによる教材配信や新教育システムを使った電子レポートの実施等の取組みが行なえるようにする。		
		成果	ミニ研修等でよく取り組んでいた。継続的な研修で全職員が教材配信などができるようになった。全教科で行えるか検討されずに進められてはいないか。基本的なシステムは出来つつある。取り組む科目が増えた。一部科目であるが評価・評定につながり進んだことは評価できる。実施科目の増加が今後の課題。ミニ研修等の成果の結果多くのコンテンツがWeb上に配信され多くの生徒がe-Learningに取り組んでいた。		
		e-Learningの実施に向けた教員の取組み	実践目標	e-Learningの実施に必要な教員のコンピュータリテラシーやセキュリティ、個人情報の保護等に対する意識の向上を図る。	
		成果	ミニ研修等でよく取り組んでいた。全体を見据えたマニュアルを作成・配布した上で、月1から2回程度の研修でよいのではないかと。まだまだ問題はあられると思われる。コンピュータ上の個人情報の保護に関しては意識が高まった。しかし、紙ベースの個人情報の取り扱いがやや雑なことが今後の課題。ミニ研修等の結果、多くの知識を得ることができ、意識の向上を図れた。		